

## 平成28年度 第3回学校協議会

大阪府立長野北高等学校平成28年度第3回学校協議会が2月2日に本校会議室にて執り行われました。

出席者

### 【学校協議会委員】

寺西 淳 様 (欠席)  
工藤 京子 様  
西光 正博 様  
原田 勝次 様  
伊藤 絹代 様  
山口 好美 様

### 【事務局】

校長 大門 雅人  
教頭 奥野 隆博  
教頭 平松 敏機  
事務長 阪口 満  
首席 井迫洋一郎  
首席 及川 龍貴 (記録)

### 【職員】

生徒指導部長 錦 信好  
総務部長 松村佐江子 (授業により欠席)  
特別教育活動部長 南野 美紀  
図書教務部長 及川 龍貴  
進路指導部長 大倉 順子  
保健部長 川越 恭子

41期学年主任 田中 康之  
42期学年主任 楠木 麻由 (授業により欠席)  
43期学年主任 西田 直樹 (授業により欠席)

数学科 長谷川節子  
理科 西野 暁子  
英語科 角田 誠

### 1. 学校長挨拶

本年度の最終報告に対して、忌憚ない意見を賜り、来年度の学校改善へ繋げていきたい。

## 2. 協議案件提出及び資料の説明

- ① 授業アンケート（平松教頭）
  - ・教科別の結果を基に報告
- ② 学校教育自己診断分析（井迫首席）
  - ・分析結果と考察を報告
- ③ 学校経営計画進捗状況（大門校長）

本年度の取組内容及び自己評価

  - ・確かな学力の育成
  - ・規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ
  - ・中退防止の推進
  - ・学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり
  - ・学校運営体制の確立と教職員の資質向上
- ④ 次年度に向けて

## 3. 協議

- ① 授業アンケート（平松教頭）

Q：数値結果について

A：各教科とも肯定的な回答をしている生徒が多く、生徒の実態に応じて工夫して授業されている。しかし、現状の結果に満足せず、ICT機器の更なる導入や授業研究の機会を増やし、よりよい授業作りを学校全体として目指していきたい。
- ② 学校教育自己診断分析（井迫首席）

Q：トイレの改善希望について

A：府の予算が計上されており、工期の日時は不明だが、1ヵ所、和式トイレから洋式トイレへの変更を予定している。
- ③ 学校経営計画進捗状況（大門校長）

Q：政治的教養を育む教育活動について

A：3年間を通じた教育計画を立て、指導をおこなっている。公民科授業だけでなく、総合的な学習の時間を活用し、具体的な投票方法など実際の選挙の際に必要な知識を河内長野選挙管理委員会に講演して頂いた。

Q：ノークラブデーについて

A：3学期から原則、月曜日に設定している。

Q：新教育課程について

A：大学・短大、専門学校、就職と多様化する進路選択への適応を狙った7つのコース制の導入、義務教育段階の学び直しを狙った朝学習の導入、郷土学の充実を目指した郷土コースの設置、シチズン教育の基礎となる長北タイムの設置など、本校生徒の現状に応じた教育課程に変更した旨を教育課程実施計画に基づいて説明した。

Q：進路状況について

A：就職については、1次募集で8割を超える生徒が合格した。生徒の就職への意識の向上、学校における就職希望への指導体制の強化もあり成果が出ている。進学についても、指定校推薦だけでなく、一般入試で指定校が無い学校への進学を狙う生徒も現れてきている。看護希望者もあり、希望者向けの講習会も実施している。

④ 次年度に向けて

・評議委員より

卒業後、すぐに就職先を辞めてしまう生徒もいる。夢や希望もあるが、現実を受けとめて努力する姿勢も必要である。また、学力とは違う社会に求められる教養も大切である。生徒各々の個性を尊重しながら、最適な就職先を選定する指導をしていく必要性を感じる。

A：就職先の選定については、就職支援コーディネーターとの面接、担任や学年の先生からの意見聴取、保護者懇談、個人懇談などを丁寧におこない、更に応募前職場見学で実際の職場見学も行っている。来年度も就職希望者は数多くいると思われるので、生徒の個性にあった就職先を選べるよう丁寧に指導していきたい。

・評議委員より

開かれた学校作りは大切である。授業に外部の方や保護者が来られることに慣れると生徒の様子も変わる。就職や進学など進路に対する意識の芽生えや規律意識の向上になる。様々な方に見られていることを良い意味でのプレッシャーとして、教育活動に繋げていって欲しい。

A：授業参観は本年度、日曜日に設定したおかげで従来より大幅に来校者が増加した。2学期に実施した公開研究授業でも生徒は非常に真面目に、意欲的に授業に取り組んでいた。やはり様々な方に見られるのは効果的であるし、教師以外から褒められることは生徒の自己肯定感の向上にもつながる。来年度も保護者だけでなく、近隣の中学校の先生方向けの案内も行い、本校の様子をたくさんの方に拝見して頂き、長野北のアピールができるようにしていきたい。

・評議委員より

学校協議会に参加することで、先生方が日々、丁寧に指導をおこなって下さっていることが分かった。ホームページなどでの情報公開は、生徒の活動の様子が中心となってしまうのは仕方ないが、その裏側にある先生方の努力も地域や保護者の方々に伝えていくことができれば良いと感じる。

A：教員の活動・努力を保護者や地域の方に伝えていくのはなかなか難しいが、生徒の様子が変わり、地域や保護者からの本校生徒の評価が高まれば、教員の努力も同様に伝わっていくと感じている。今後も教職員の努力が地域や保護者の方から認めて頂けるよう、日々、教育活動に励んでいきたい。

・評議委員より

地域の企業さんとの話の中で、「北高さんって面白い学校なんやね。北高を希望する生徒がいてる。」との声も聞くようになってきた。また、地域連携を積極的に行って頂いており、地域住民からの本校の評価も上がっている。地域住民からの意識もより良い方向に変わってきているので、北高生の良いところを伸ばし、規律面においてもしっかり指導して頂き、より良い学校を目指して欲しい。

A：地域連携の成果が地域住民の方々に認められているのは非常に有難く感じる。本年度は昨年度よりも、地域の行事への参加機会を増やすことができた。来年度も河内長野市を中心に地域の行事やイベント、お祭りなどに部活動・生徒会を中心に積極的に参加し、地域に貢献していきたい。

・評議委員より

教員アンケートについては、厳しい結果の項目もあるが、全体的には年々、向上してきている。上昇傾向にあることは非常に大切であるので、来年度も教員間の連携を密に教育活動を行って頂きたい。

A：教職員の業務の多忙性による情報共有の難しさや年齢構成がいびつとなっている中でのベテラン教員と若手教員の相互理解、新教育課程の導入に伴う学校全体としての方向性の意思確認など、課題は複数あるが、来年度は本年度を上回る結果となるよう、学年団での情報共有、管理職と教職員間との意思疎通、ミドルリーダーを中心とした教職員集団の相互理解の向上を丁寧におこなっていきたい。